

2019年4月〜2020年3月までの相談件数合計170件は前年比3.3倍でした。また、一番目立った相談は、「妊娠したのではないかな? どうしたらよいか」というものでした。1日4件の相談があるなど、また、徐々に専門家の助言が必要なもの、緊急

性が高いものが増えてきています。この他、男性からの相談が

相談事業は前年比約3倍

予想外に多かったこと(26%)、若年者が随胎することにほとんど躊躇がない現状が浮かび



「このとり・にんしん SOS」電話相談にも様々なあります。私達は妊娠中絶を避ける、どうしても子育てできない妊婦さんには養子縁組、里親制度の活用をお勧めしています。出産の事実を戸籍に残したくない事情の方もおられます。出自を一定期間伏せておき、実



記念すべき第一号 新聞を発刊

新聞スタートに際して

私たち「NPO法人このとり」のゆりかご in 関西の活動も4年目を迎えました。お陰様で電話相談活動を中心に活動基盤は整いつつあり、仲間も増えてきた今、この新聞が発行されることを大変、嬉しく存じます。私たちの活動内容を、ご支援をいただいている会員の皆様にお伝えし



理事長 人見 滋樹

「性教育の出前授業の開発」

2020年(令和2年) 5月11日(月)

特定非営利活動法人 このとりゆりかご in 関西
兵庫県神戸市中央区北長狭通4-9-26
https://www.yurikago.site

ハローここのとり新聞

相互の意思の疎通、知識の伝達、意見の交換、認識の共有を図る道具として、同時に、まだ私たちの活動を知っていただけない皆さまへの広報の道具として、この新聞が力を発揮してくれるでしょう。皆で育てていきましょう。そこで、私から大きな、しかし残念なニュースをお伝えしなければなりません。それは、6月14日に企画していた蓮田健先生の講演が新型コロナウイルスの影響で延期となったという辛いニュースです。蓮田健先生は昨年末に、どうしても匿名でしか出産できな

国内初の内密出産制度の導入

新生児相談室に保管されていた情報を子にお知らせし、出自を知ることができました。このニュースは関西の新聞でも取り上げられましたので、ご存じの方もおられるでしょう。子が出自を知る権利を保障し、且、母親の戸籍に出生

熊本県・慈恵病院

の事実が書かれない方法です。元来、喜ばしいはずの出生が、相手の男性に逃げられた、強姦された、男女とも未成年で育児能力がない、親にも相談できない事情があるなどの理由で妊娠中絶を望む妊婦からの相談は、私達の「このとり・にんしん SOS」電話相談にも様々なあります。私達は妊娠中絶を避ける、どうしても子育てできない妊婦さんには養子縁組、里親制度の活用をお勧めしています。出産の事実を戸籍に残したくない事情の方もおられます。出自を一定期間伏せておき、実

母の戸籍に出生した事の記録をしない方法で、胎児の墮胎を避け、幼い命が守られるなら、この道を選択いたします。6月14日に蓮田健先生に詳しく、具体的なお話を伺う予定でした。コロナ禍のために延期となりました。残念ですが、時が来るのを待ちましよう。

アメリカでは赤ちゃん避難所法が、全州で認められています。テキサス州が始まり、わずか10年で50州の全てに広がったのです。経済力のない女性が産んだ子どもは国が育てるという考えが国民に受け入れられています。豊かな日本は、一日も早く経済的の中絶を合法とし、子どもは国の宝という考えを広めて行かねば、国際的に非難されます。

私たちの仕事は山積みしています。皆さまと一緒に、美しい日本を、マザーテレサの言われる心の優しい国にしていくべく頑張ってまいります。

青少年への生命尊重事業

性教育の出前授業の開発



「性教育の出前授業の開発」

電話相談事業は軌道に乗り始めました。この事業は、現在の柱ではありますが、「待ち」の事業です。それに対し、こちらから社会に対して積極的に働きかけることで、社会への意識喚起をもたらすもう一つの柱となる事業として、性教育の出前授業の開発に今年度から着手しました。

10代の青少年からの相談電話が全体の24%にのぼる現状を鑑み、所在地のある兵庫県下の高等学校に働きかけ、今後、教職員向け・父母向け・生徒向けの性教育「出前授業」を模索してまいります。

NPOサポートファンド・助成取得

青少年への生命尊重事業の動き

11月19日、Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs 国内助成 2019年募集の審査が通り、助成決定。

11月26日、兵庫県教育委員会を介し、このとりのゆりかご in 関西のリーフレット等資料を全県立高等学校(150校)に配布。(後日、2校から、全校生徒への配布希望があった)

12月度のコア会議(理事会業務諮問および執行機関)に、事業推進の一つとして、「いのちの授業」(高校生

体に向け性教育出張授業)構想を掲げ、その後の理事会の承認を得る。

1月16日、兵庫県立網干高等学校(全日制・通信制)訪問、意見交換。

1月18日、Panasonic 助成に伴う外部コンサルタント(2名)の指導が始まる。

1月27日、助産師と面会、協力・指導を要請し、快諾を得る。

2月、副理事長より、出前授業構想に関連する「幼児を持つ親への、相談員による「家庭で行う性教育」演習会構想、提案される。

※上記写真はサポートファンド認定贈呈式

秋の特別講演会

参加者の感想(抜粋)

「中今を生きる」という考え方は、自分の育った家にもあったように思っていました。命をつないでいくことの大事さを子どもたちにも伝えていきたい。

子どもは授かりものであり、



夫婦の意思でつくるかどうかを決定することにつくづく疑問を覚えた。また、生む意志

信頼資本財団の共感助成

「信頼資本財団」

このとりのゆりかご in 関西が行うさまざまな取り組みは、主に皆さまからのご寄付・会員会費・基金収入によって支えられています。共感助成は、先団



体には選ばれました。財団経由で広く当法人の存在や意義・活動を知っていただき、寄付をよせていただく道が新たに開かれることになりました。

(昨年10月〜今年9月までの1年間)

また、読み終わったら、読み終わっていただき、

編集後記

第1号の紙面はいかがでしたか。今後「in 関西」の活動を会員の皆さまと関心のある方に知っていただくために、活動報告を中心として、まずは年2回の発行を目標に継続していきたいと考えています。

新たな相談員誕生 第3期養成講座

2019年6月8日から9月5日まで、計7回にわたって「令和元年度 にんしんSOS電話相談ボランティア養成講座」を、元町拠点にて開講しました。参加者は11名。最終日には全員がそろって理事長よりの修了証を受け取りました。

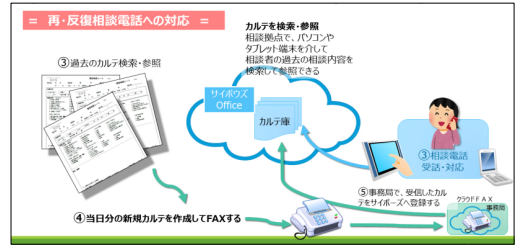
電話相談および面談事業の進展

電話相談記録用紙の改善

電話相談を受けた後、相談員はその日のうちに相談内容を定められた用紙に記録し、「相談シート共有FAX番号」に送信します。

事務局担当者がクラウド上にそれを保管・蓄積し、相談員は、翌日電話相談が始まる前までに、各拠点にて、前日(まで)の記録を読むことができます。

前年度は、「相談シート」そのもののバージョンアップ(より使いやすいものへ)や、「面談シート」「専門家への相談シート」の新規作成、それぞれの書き方や送信の仕方マニュアルの共有化がなされ、さらには、即座に実施内容や同様事例等の検索が可能となるように、相談開始から蓄積された計231件(年度末現在)のデータベース化が進んでいます。



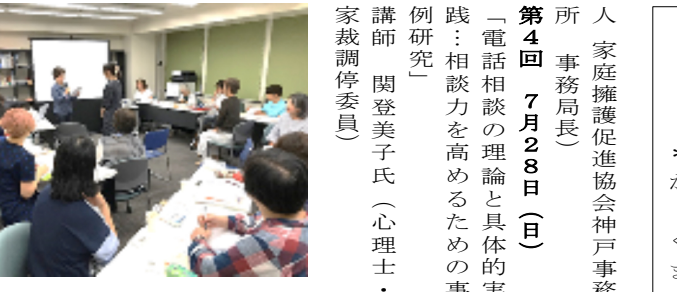
参加者の感想

富山先生の堕胎手術の話には重いものがあった。「お腹の中で既に亡くなっている子はすぐに胎盤からはがれ出てきてくれるが、まだ生きている子は時間がかかり、この子は行きたいのだと思うと辛い」という言葉に、そういうことを医者にさせる社会に強い憤りを感じた。
*赤ちゃんを救いたいという方向性があり、それに必要な情報などを伝える。専門の先生たちとの連携も取れ、一人での相談者との電話対応ではなく多くの仲間がともにいるというのはとても心強いことだ。
*回を重ねるたびに、相談員の役割の大切さを知り、電話(耳から)の情報のみで会話を繋ぎ、小さな命と相談者を守る活動のすばらしさ、困難さを認識するに至った。
*相談者の悩みは深く大きく、予測困難である。これから、他の相談員と連携して、指導を受けながら「定型の教科書どおり」には進まない、相談者の苦悩が少しでも軽減できるように日々精進したい。
*相談員は、技術や知識が必要なのはもちろん、自身の感性や精神状態も重要な要素だと感じた。相当な訓練と自身の心の整理も必要だと思った。

カトリック芦屋教会講演会・参加者の感想(抜粋)
*小さな命をめぐる日本と世界の情勢が年表で提示され、世界の後追いをする日本の現状が分かった。堕胎の映像は衝撃だったが、お腹の赤ちゃんが生きている命であることを目の当たりにさせられた。命を操作できる錯覚に陥る危険な社会の中で、正しく必要な情報を伝えていく必要を痛感した。



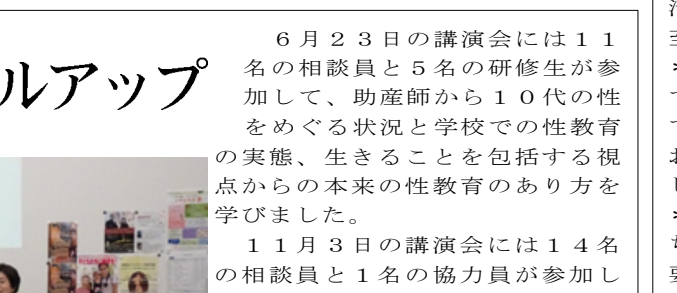
第1回 6月8日(土) 開校式 オリエンテーション 「妊婦の心とからだ 妊娠の経過と緊急対応につなげる主な症状」 講師 富山陽子氏(産婦人科医)



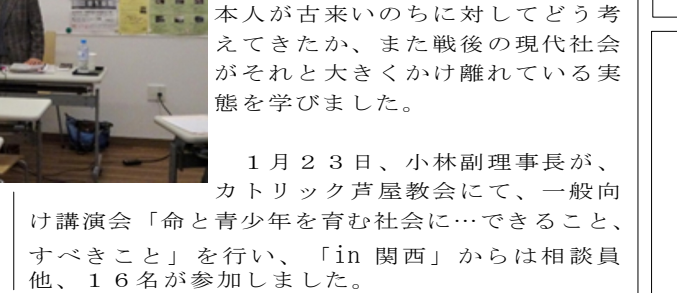
第4回 7月28日(日) 「電話相談の理論と具体的実践：相談力を高めるための事例研究」 講師 関登美子氏(心理士・家庭擁護促進協会神戸事務所 事務局長)



第7回 9月5日(木) 「にんしんSOSロールプレイ実践編(I・II・III)」 講師 小林和氏・関登美子氏 鳥居潤氏(臨床心理士)



第2回 6月27日(木) 「電話相談に必要なカウンセリングの基本とコツ：電話相談の理論と実践」 講師 小林和氏(精神科医) 第3回 7月14日(日) 「思いがけない妊娠の対応：社会的養護の概論 こどものため養子縁組をすすめるために」 講師 橋本明氏(公益社団法人)



第5回 8月8日(木) 電話相談、その難しさと喜び 「見えない相手を観察し、相手の見えないところを聴く力を育てる」 講師 小出隆氏(牧師・PH P研究所「傾聴」講座講師・認定精神保健福祉士) 第6回 8月22日(木) 「妊婦と胎児をめぐる社会状況と「in関西」の使命・展望」 理事長 人見滋樹

若年妊娠の課題と支援(柴田綾子氏)

1月30日、神戸事務所にて、協力病院の淀川キリスト教病院産婦人科医の柴田綾子氏を招き、電話相談員の勉強会「若年妊娠の課題と支援：医学的合併症リスクや貧困連鎖について」を開催しました。参加者他12名が参加しました。
*若年妊娠の現状、日本の性教育とその取り組み、私たちができる事は何かについて学んだ。十代の妊娠は切迫産産、妊婦健診の未受診、乳児死亡



率など、どの統計を見てもやっぱりリスクが高いようだ。先生の「若年妊娠は悪ではない。若いからダメな母親だとか偏見をもたないこと。LINEやYouTubeなども使いつつ、正しい知識を広める。妊娠した生徒を支えていく仕組みを、学校も巻き込みたい」と題して、京都市から渡邊安衣子氏(助産師、京mom×キレイ代表)をお招きして、性教育はいつから必要なのか?、性教育の三原則、包括的性教育

「お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員であることを啓発する講演会、セミナー開催」事業として
6月23日に神戸元町にて2019夏の講演会「これからの性教育：生命尊重の視点から」と題して、京都市から渡邊安衣子氏(助産師、京mom×キレイ代表)をお招きして、性教育はいつから必要なのか?、性教育の三原則、包括的性教育

「お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員であることを啓発する講演会、セミナー開催」事業として
6月23日に神戸元町にて2019夏の講演会「これからの性教育：生命尊重の視点から」と題して、京都市から渡邊安衣子氏(助産師、京mom×キレイ代表)をお招きして、性教育はいつから必要なのか?、性教育の三原則、包括的性教育

現行相談員 相互のスキルアップ

現行相談員も「令和元年度 にんしんSOS電話相談ボランティア養成講座」へ15名が参加しました。そのほか、高槻拠点では、電話相談のない時間を有効活用してロールプレイを実践しています。各拠点で、個別的に、電話相談時に役に立つ資料作り(例:「電話相談シート」の詳細なガイドシート、予定日早見表、避妊方法、胎児の成長とお母さんの様子、血液型、専門用語の検索情報など)も行われており、蓄積が進んでいます。また各拠点には参考図書が整えられており、空き時間や自宅での研修ツールとなっています。



1月23日、小林副理事長が、カトリック芦屋教会にて、一般向け講演会「命と青少年を育む社会に...できること、すべきこと」を行い、「in関西」からは相談員他、16名が参加しました。

「お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員であることを啓発する講演会、セミナー開催」事業として
6月23日に神戸元町にて2019夏の講演会「これからの性教育：生命尊重の視点から」と題して、京都市から渡邊安衣子氏(助産師、京mom×キレイ代表)をお招きして、性教育はいつから必要なのか?、性教育の三原則、包括的性教育

「お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員であることを啓発する講演会、セミナー開催」事業として
6月23日に神戸元町にて2019夏の講演会「これからの性教育：生命尊重の視点から」と題して、京都市から渡邊安衣子氏(助産師、京mom×キレイ代表)をお招きして、性教育はいつから必要なのか?、性教育の三原則、包括的性教育

「お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員であることを啓発する講演会、セミナー開催」事業として
6月23日に神戸元町にて2019夏の講演会「これからの性教育：生命尊重の視点から」と題して、京都市から渡邊安衣子氏(助産師、京mom×キレイ代表)をお招きして、性教育はいつから必要なのか?、性教育の三原則、包括的性教育

